



一般財団法人光産業技術振興協会
専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

さて、昨年は光産業を取り巻く環境も、新エネルギー・省エネルギー需要、東京オリンピック開催に向けての取り組み、円安効果による製造拠点の国内への回帰などにより改善され、将来の発展の礎となる年となったと思います。昨年に引き続き、法人税減税の決定など経済的な環境が整いつつある本年は、新たなビジネスモデル、製品、サービスを開発していく好機であり、日本経済の成長戦略を着実に実施に移していく重要な年になることが予想されます。

その中で光技術は医療・健康技術、ロボット技術で使用するイメージセンサーや超精細ディスプレイ、自動車の自動運転などに資する高速カメラやユーザインタフェース、安全・安心な生活を実現するための防災センサー、バイオセンサー、情報化社会に不可欠な情報通信網構築に資する光ネットワーク、エネルギー政策の重要な柱である太陽光発電、LED 照明など成長戦略を実現するためのキーテクノロジーが多く含まれています。

光協会では、これらの技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を協会事業の第一プライオリティとし、4年前から2030年代をターゲットとしたロードマップを策定してきました。これまでに、情報処理フォトニクス、安全安心フォトニクス、光ユーザインタフェースについて完了し、現在は、光情報通信ロードマップの策定を行っています。

また、情報処理フォトニクスロードマップに基づき立案され、経済産業省の未来開拓技術プロジェクトのひとつとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」も順調に研究開発が進み、昨年の中間評価において高い評価がなされました。

さらに、標準化に関しては、昨年11月に、IEC 東京大会が開催され、光協会も本大会の中心メンバーとして光通信デバイス及びレーザー安全性について戦略的な国際標準化活動を実施しました。

本年も引き続き将来の光産業の発展のために、プロジェクト立案に向けてのF S、技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査事業、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。